

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670700226
法人名	有限会社 さくらい
事業所名	ホームさくらい
所在地	富山県黒部市堀高27-1
自己評価作成日	平成27年10月20日
評価結果市町村受理日	平成27年12月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

月々の会議や日々の申し送り、各職員の気付きや全体での話し合いの場を設け、重度化になっても本人の望みやらしさを活かす環境作りに向け勉強会や外部研修を取り入れ、ひとり一人の意向やお互いに支え、支えられるケアに努めています。又、地域と共に安心して暮らせる環境作りに努め、良好な関係を継続できるよう取組み又、認知症に対する啓発活動や講演会等も行い、認知症に対する相互理解にも努めています。又、他のグループホームとの施設間交流や他事業所との合同勉強会、学校からの実習生の受け入れなどを行い、外部の視点の大事さや自施設との相違点を見極め又気付き、新しい技術等の理解や様々な情報交換並びに理念の理解と意識統一を図り、これまでの介護とこれからの介護を踏まえ、サービス向上に役立てています。又、いい事業所を作るように一人ひとりが考えて日々実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は「いたわりの心」を大切に、利用者一人ひとりに寄り添い笑顔で支援している。事業所に気楽に立ち寄ってもらえるよう家庭的な雰囲気を作り、地域に溶け込めるよう取り組んでいる。家族会は定期的に開催され、利用者、家族とのコミュニケーションは良好に保たれている。また、人材教育に力を入れており、各種研修には積極的に参加するなどサービスの質的向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

ホームさくらい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「らしさ」を活かす生活を提供し、「さくらい」独自の理念を掲げ掲示し、日々取組んでいる。	理念や「さくらい」独自の介護方針を職員全員が共有できるよう、合同勉強会やミーティング時に確認している。利用者が暮らし易い環境づくりには地域との関わりが大切と考え、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（町内行事や小学生のボランティア・幼稚園の運動会など）に招待されたり、迎えたりし盛んに交流している。又、地域へ買い物にでかけたり、事業所近辺のドラッグストアへ、歩いてでも行けるようになり日常的に交流を行っている。又、その季節感が感じられるように散歩したり、ご近所さんとも積極的に会話するように努めている。又、事業所と地域との繋がりを町内会長、民生委員、ご近所さんと話し合いを行っている。	買い物や散歩の時など地域の人達と挨拶を交わしたり、地域行事には積極的に参加している。また、事業所には近隣の園児や友人たちが立ち寄るなど、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症講演会を開催したり、相談や問い合わせ等も含め介護の悩みや対応方法等の理解に努めている。又、施設見学も気軽に行えるように、より開かれた事業所になるには、地域とともに暮らすには運営推進委員会で地域との関わり方や支援方法を話し合いをして、今後活かしている。又、事業所で行う勉強会等にも町内の方が参加できるように声掛けをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年4回開催し、町内会長、地域包括センターの職員、民生委員、利用者の家族等が参加している。取り組み状況や報告・意見交換を行い要望等をサービス向上に活かしている。又、今後の総合支援事業の中でお互いに支え、支えられるにはどうしたら良いか、在宅とは等を話し合っている。	会議では利用者の様子や行事予定を報告したり、委員からはケアに対するアドバイスもらっている。今後の支援事業として、地域での高齢者の相談ごとに対応できないかなど意見交換が行われている。	運営推進会議は現在概ね3ヶ月ごとの開催となっているが、参加委員の理解と協力を得ながら、地域の状況やケアに対する意見を運営に活かす機会と捕らえ、行事などへの参加を含め、2ヶ月に1回開催されることが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の現状や事業所の実情を踏まえ、相談・助言を頂き又、その時々で協力している。又、これからの地域ケア、総合支援事業や人材育成についても、意見交換を行っている。また介護職員の交流の場をH26年度の11月に全職種を対象にした職員研修、交流会に参加しました。	市の担当者には事業所の状況やケアの様子などを報告したり、今後の総合支援について相談している。在宅医療協議会主催による研修会や交流会には積極的に参加するなどして協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除について会議等で理解に努め、日々のケアの中で活かしているが、利用者さんやご家族さんの意向及び利用者さんの生活の質の低下防止に沿えるように実施している。また、常に行動や言葉に高圧的な態度はとらないように全てが身体拘束に該当することを忘れず、職員全員で取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては、勉強会や外部の研修会に参加するなど職員共通の認識として、お互いに確認している。利用者の言葉や行動において職員が高圧的な言葉になっていないかなど職員同士で確認している。「いたわる気持」を忘れないで身体拘束とならないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修会等で高齢者虐待について学ぶ機会をもち、虐待への正しい理解を常に持って業務に当たっている。リーダーがその時々で指導に当たっており必ず管理者に報告することになっている。又、業務内容や勤務状態を定期的に見直し又、個別面談を持ち、働きやすい環境作りに努め、職員の疲弊防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会等で理解に努めている。又、現在ご家族さんが成年後見人の方もおられるので、時々アドバイスやご意見を頂き、今後の対応や相談に応じられるように努めている。今後のマイナンバー制度等も含め、これからの権利擁護と権利意識との関わりも増えると思われるので、研修等も含め、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にもしっかりと説明しているが疑問点等があれば電話や面会時にいつでも対応する旨を伝えてあり、又、家族会でもその場を設けている。各利用者さんへは、日々の会話で疑問などを傾聴し、解決できるように努め、それらをリーダー、管理者まで報告している。また、家族・利用者・職員と気軽に話し合える雰囲気作りに配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度、家族会を開催し、意見交換したり、要望等を汲み取っている。また、各面会時にも情報交換して、要望や意見があれば、事業所として全職員で話し合い、施設運営等に反映するように努めている。利用者さんの要望等は、個別対応や日誌等を活用し日々汲みとる努力をしている。又、日々の変化やこれまでにみられなかった言動等も随時申し上げ、今後の支援を双方で話し合っている。	定期的開催している家族会や、利用者の様子を掲載した「まんてん日記」を送ったりして、利用者や家族が話し易い環境づくりに努めている。出された意見や要望は、職員間で情報交換し、改善することがあれば業務に活かすよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	悩み等の相談できるスペースを確保し又、日々はもちろんの事、ケース会議・人事会議などでも意見や提案を聞く機会を設けている。又、個人面接や個人面接表等でも意見や提案を聞き、出来る限り反映させている。現場の中でもお互いがコミュニケーションを図れるように努め、一人ひとりの声を大事にしている。	職員との個人面接やケース会議などで要望や提案を聞く場を設けており、職員とのコミュニケーションは良好に保たれている。業務中も意見が言えるように仕向けており、各種研修にも積極的に参加するなどサービスの向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの勤務状況や生活状況等踏まえ、環境整備に努めている。又、会議及び個人面接にて意見交換等の時間を設け、介護技術に関わらず、今後の生き方や人としての接し方や自己目標の向上にソフト・ハードの両面において改善を実施し、周知している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に合った研修や経歴や経験年数によって参加できる研修などに積極的に参加させて、資質向上に努めている。又、接遇やコーチングを研修にとりいれたり、パワハラ防止等の研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県認知症グループホーム連絡協議会へ加入し、様々な勉強会や研修会に参加してもらっている。又、事業所間交流や独自に他グループホームとの交流を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、本人・家族を含めた関係者と話し合い本人に関する情報を把握している。また、管理者以外の職員も同行させ、より多くの気付きや情報収集に努めそれらを全職員に周知する場を設け対応している。本人の不安や要望は確認しているが、利用後も日常生活の気付きや本人並びにご家族さんからも聞き取るように努め、新たな情報をノートや引継ぎ等で職員全員で周知している。又、ケース会議などで本人のニーズや要望などの取り組みについて話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に事前の情報や生活歴などの十分な話し合いを行い、双方納得するまで話し合いをしている。又、入居前後に関わらずこまめな連絡を実施し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な相談内容に応じて、双方が納得できるように対応している。又、内容によっては、新川介護保険組合、市役所などに相談・助言を求め、本人・家族さんとの意向を踏まえ、話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者さんのアセスメントを行い、本人が出来ることを主体に行っている。又、日々の気付きや変化を記録したり、ケース会議等で見直しを行い支え、支えられるよりよい関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者さんの状態及び状況の変化に対応し、常に連絡・相談を行っている。又、家族会でも家族と一緒に過ごす時間の大切さを繰り返し伝え、共に本人を支えていく一員であるところを認識していただいている。家族会は、ひとりでも多くの家族さんが参加していただけるよう日曜日に行っている。又、必要があれば家族さんとのケア会議を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時は、職員一人ひとりが感謝を示し、時間に問わず対応し支援に努めている。利用者さんの会話や訴えの中から、馴染みの場所にドライブへ行ったり、買い物にでかけたりしている。又、御家族さんへは、外出や外泊は自由であることを伝えている。	馴染みの友人や知人が気楽に寄れるよう、職員は「いたわる心」を持ち笑顔で支援している。馴染みの店に買い物に出かけたり、要望があればドライブに出かけるなど、大切にしてきた場所や人との関係が途切れないように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の見極めと他者との関係を把握し、日々の生活や様々な行事、作業などでも各利用者さん同士の交流が出来るように、偏りがないような環境を作っている。また、状況によってはそれぞれの個性を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した利用者さん、特にご家族さんとは今後の方向性や様々な選択など、退去後であっても相談に来られるご家族さんが増えてきているので、今後も様々な対応できるように働きかけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日誌やノートにはその時々利用者さんの表情や行動、仕草等を書きとめ、本人の思いやその声を見逃さないように努めている。又、ご家族さんからの情報も得て日々の日誌や申し送り、会議などで把握している。意思疎通が困難な場合は、ご家族さんや関係機関からの情報を得たりして本人が納得いくように対応している。	日々の言葉や表情、また行動などの情報を職員間で共有し、思いや意向の把握に取り組んでいる。意思疎通が困難な時には利用者に寄り添い、スキンシップなどでコミュニケーションを図りながら、本人の思いを読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接やご家族さんからの情報を元に一人ひとり把握している。又、日々の暮らしの中での会話等で情報収集が出来たときには職員全員が把握できるように、回覧ノートや申し送り、会議などで伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、日誌やノートに各利用者さんの細やかな気づきを記入しまとめることで、1日の内容が把握できている。又、日々の職員同士の申し送りや会話で各利用者さんの生活の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人によりよく過ごしていただく為の課題とケアについては、月1回のケース会議や運営推進会議、家族会等で話し合い、又必要があれば関係機関並びに各ご家族さんや職員とも話し合いを行い、本人の意向や日々の気づきや変化、様々な情報とあわせて介護計画を作成している。又、他事業所の事例も参考にさせて頂いている。	その人らしい生活の送り方を考え、担当職員からの詳細なアセスメントや、医療、家族など様々な視点からの意見も参考にして職員間で話し合い、現状に即した計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やメモ、引継ぎノート等に日々の様子やケアの実践・結果、気づきなどを記録し、全職員で把握している。又、それらを各担当者がまとめ、介護計画の見直し及び実践に活かしている。又、ケース会議時に見直した介護計画を発表し職員全員が把握し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型認知症対応型通所介護の他、認知症対応型短期利用共同生活介護等の受け入れも行っている。また、地域の要望や総合支援事業での取り組み、介護保険外事業も視野に入れ、多様化するニーズに柔軟に対応していきたいと考えている。又、入居者さんに関しては、その時々意向に出来る限り、寄り添えるように対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターなどの行政や、町内会、民生委員や消防署等の各機関への働きかけを行い、協力を得ている。又、家族さんや本人の会話より慣れ親しんだ社会資源を把握し、職員全員で情報を共有している。今後、総合支援事業も含め、もっとお互いに支え、支えられる地域とのあり方を考え、地域住民との交流等でもっと支援できるように話し合っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族さんの意向を踏まえ担当医師と受診後も連携をとって対応している。又、看護師を常勤させ日頃の状態把握に努め、体調不良時などは家族さんへ受診を促し、緊急性がある場合やご家族さんが対応出来ない場合は、事業所でも対応している。又、事業所の協力医を担当医とされている方が半数以上おり、訪問診療を受けておられ、受診時には、日頃の状況を書面にして渡し、医師に情報が正確に伝わるよう配慮している。	利用者や家族の希望に合わせた受診や往診の医療体制を支援し、かかりつけ医に詳細な情報を提供するなど連携を密に図っている。家族の協力が得られない時は事業所が対応し安心できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携や相談を密に行い、各利用者さんの日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。又、必要であれば、担当医に連絡をとり指示を仰いだり、必要であれば受診を促したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。又、状態把握の為、面会や病院関係者との情報交換やご家族さんとの話し合いを行っている。又、退院時には本人さんの状態を把握するため、担当医・病院関係者・ご家族さん等出席されるカンファレンスに同行させていただき、注意点や疑問点の解消に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、看取りケアはしていないことを家族会でも説明している。しかし、入居者さんの重度化に伴い御家族さんの要望や国の在宅シフト、病院のベッド数の削減などもあり最期のあり方が問われている。今後10年以内に看取りを行う予定です。今後も家族会での要望や看取りに向けた取り組みを職員研修や資格等も含め支援していきます。また、必要があればかかりつけ医さんに相談している。また、今後に向けた家族さんの要望も聞き、出来る限り家族・本人の意向を尊重して対応をしている。又、現時点での最大限の対応が出来るように職員の外部・内部研修にて技術力・観察力アップにつなげていて、家族さんも理解されている。	重度化や終末期に向けては、事業所で出来ることを十分に説明し、本人、家族に理解してもらっている。また常に医療機関と連携を図り、状態変化に対応している。職員には「看取り」の研修を勧めるなど、終末期に対する意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて黒部市消防署の職員を講師に招き、救急講習を受講している。又施設内にAEDや自動火災通報装置を設置し、職員全員が初期対応（電話対応や職員招集等の連絡）の仕方を把握している。又、急変時や体調変化時の対応については、対応後の振り返りや記録に残し又、毎月のケース会議などでも看護師中心に振り返りの場を持ち今後に活かせるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（昼間・夜間それぞれ1回づつ）の避難訓練を継続して行っている。訓練後は消防署や町内会等様々な方から助言を頂きながら、今後の改善に取り組んでいる。又、地域と様々な連携を考えながら、災害時や避難場所等の確保やマニュアルの構築も含め、現状に即した対策及び取り組みを行っていきたい。	定期的に避難訓練を行っており、避難誘導に際しては地域の方々や母体企業の協力も得ながら訓練を実施している。備蓄品も非常食などの見直しを順次進めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言動や対応は全て虐待だと認識を促し、そのような事があれば職員ひとり一人に指導・改善を行っている。又、会議や接遇等の研修でも職員間の言動等や自分に置き換える、相手の立場になって考えるを実践して、高齢者虐待防止に努めている。	利用者一人ひとりの理解に努め、相手の立場に立って考えることを職員間で徹底し利用者に対する言葉遣いを注意している。不穏行動や暴言など落ち着きのない利用者には、ゆとりと尊厳を持って心落ち着くまで寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をできる限り尊重する為、職員は言葉の話す速度や矢継ぎ早に言葉を言わないように声かけや場の状況に合わせた説明に工夫をして対応している。又、日常生活の中での様々な場面で、本人の能力に合わせた場面作りを心かけ、本人の思いを出来る限り傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、無理に止めたりせず出来る限り見守っている。また、本人からの散歩や外出、買い物等の希望があれば出来る限り希望に添うようにしている。又、職員の気になる言動があれば、その都度管理者やリーダーが指導したり、全職員が気付いて会議や勉強会等で見直したり、考える時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類や入浴後の衣類を自己にて選んでもらったり、選びやすいように場面を設定したりしている。利用者さんの中には、化粧道具を持参されている。本人の嗜好を把握し、介護者側の判断や理想にならないように職員同士の声かけやその都度の状況に合わせて対応している。又、利用者さんのカットは、ホームに出向いてもらって本人に希望を聞いてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、季節を感じられる食材を使用したり、メニューを工夫して行なっている。食事の準備（盛り付け・配膳）や調理（下ごしらえ・食材切り・味付け等）や片付け等は、利用者さんに手伝っていただいている。また、毎日買い物に出かけ食材等に触れ合う機会を設けたり、鍋やすしなどのメニューも取り入れている。	お手伝いできる方には料理の盛り付けや食器拭きなどお願いしている。季節の味を大切にして、介助の必要な利用者には時間をかけて味わってもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し、水分量は日誌に記録すると共に摂取量の把握をしている。栄養バランスに関しては、栄養士の立てた献立に基づき調理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者さんの状態や能力に応じた声かけや見守り・介助にて、口腔ケアを行っている。また外部研修で修得した口腔ケアを行い、状態観察している。夜間は、本人の意向を確認し義歯を預かり洗浄している。又、今後も研修を行い、嚥下改善や口腔環境改善に努める。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、各利用者さんの排泄パターンを把握している。本人の日々の状態や生活の質も考慮に入れながら、日々の改善に繋げ、その時々でトイレでの排泄に取り組んでいる。また、一人ひとりの能力に応じたケアに取り組んでいる。	排泄パターンを把握しているが日々の状態を見て失敗のない排泄支援に努めている。重度化になりパットやオムツを使用する方も増えてきたが、生活の質を落とさないよう排泄の自立に向けた取り組みを進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な方には、排便が定期的に出ているかチェックしている。便秘がちな方へは、下剤や座薬を処方していただきコントロールしたり、利用者さんにより牛乳や乳製品を摂っていただいたりしている。又、適度な運動や1日に必要な水分量に近づけるように水分補給も心かけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴日は決めてはあるが、それにとらわれず、柔軟に対応している。入浴前には、職員と一緒に入浴準備や、入浴剤を利用者さんを選んでもらったり又、季節感を取り入れゆず湯を企画したり、入浴を楽しめるように工夫している。今後は柔軟な時間対応も検討していく。	体調や希望を確認しながら入浴をすすめているが、入浴前には軽い体操や明るい会話などで気分を持ち上げ、気持ち良く入れるように取り組んでいる。嫌がる人には時間をずらしたり担当を変えたりするなど、無理強いしないよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居眠りが強いようであれば、居室で休んでもらったり、ちょっと横になりたい時は、畳コーナーで横になられたり、ソファやリクライニングチェア等も置いて、その時々状況に合わせて休んでもらっている。前日の夜間や直近の本人の様子を伺いながら、日中の臥床時間が長くなり過ぎないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者さんの内服薬については、利用者さんごとに薬箱を設け、薬の残薬量が簡単に確認出来るようにしてある。又、各利用者さんのファイルには診断書と一緒に処方された薬の内容、容量、副作用について記入してあるものを綴じてあり、職員がいつでも確認できるように置いてある。又、薬の受け取り時は、変更等の有無を確認し、全職員が周知するよう、引継ぎノートに記入している。又、服用後の症状の変化などにも細やかな観察をして引継ぎをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者さんの働く意欲と役割を無理のないように、各利用者さんの特徴を踏まえ、見守りながら行っている。又、外食や散歩・ドライブ等で外出の機会を設け、楽しみや気分転換を行っている。又、裁縫や畑仕事・台所仕事等ご本人の能力を活かした環境作り、又、隠れていた残存能力の気づきに努めている。又、嗜好品の希望や好みの変化等があればその都度検討している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、散歩や買い物、デイサービスへ慰問、地域の行事に参加などしている。また、畑作業や掃除などで外気に触れ、気分転換が図れるように支援している。又、それぞれの思いや希望に寄り添い、臨機に対応して外出をしている。重度化になっても季節感を感じられるように支援している。	一人ひとりの希望やお天気を見て、買い物や散歩など臨機応変に出かけている。季節を感じる場所や新幹線の見学などその時々情報を取り入れて、みんなで出かける楽しみを共有している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さ・利用者さんによってお金に対する思いの違いを理解している。利用者さんによってはお金を所持している方もおられ、買い物等で支払いの機会を作り出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙のやりとりや、電話をかけたり、受けたり出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れる為、調理（食材の匂いや味付け、音等）や洗濯干しの時期や位置の工夫を行い、光や音及び季節のぬくもりを取り入れている。又、季節ごとで壁装飾等に変化を持たせている。又、七夕飾りや干し柿、鏡餅を飾ったりゆず風呂に入ったり、又、畑作業に出向いて、汗を流したりと暮らしの中で春夏秋冬の移り変わりを感じてもらえるように工夫している。	玄関やフロアー内は秋色に飾りつけられ、利用者一人ひとりの笑い顔の写真や運動会などの行事写真がホールの壁や居室前の通路一面に貼ってあり、和やかな雰囲気を感じられる。またフロアーから続く広いベランダは日向ぼっここの場所であり、季節ごとに幅広く使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の椅子やテーブルの配置に工夫を行ったり、時には食堂スペースも活用しながら空間作りを行っている。又、畳コーナーやソファ等設置し、日々、それぞれの思い思いの空間で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人が使い慣れた家具類等好みのものを持参していただけるようお話しています。持参したアルバムを居室で眺められたり、縫い物をされていたり、TVを見られたりと自己にて過ごされる時間を大切にしている。又、能力に応じ、使い慣れ親しんだものに触れていただけるよう職員が場の設定を行うこともある。	自分の部屋らしさを大切に家具の配置や写真の位置などを家族と相談しながら進めている。家族の居場所を作るため、カーペットを敷くなど居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはバリアフリーとなっており、居間やトイレ、浴室内・廊下などに手摺を設置し使用していただいている。また、テーブルやベッドの位置や高さも調整し、生活しやすく工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ホームさくらい

作成日 平成27年12月8日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	ひとり一人が重度化になっても、希望する又は馴染みの場所へ外出することや季節感が感じられることを増やす。	年間を通して、季節感が感じられる又、馴染みの場所や普段行けない場所へも出来る限り外出する。	年間行事及び外出計画の作成を行い、1ヶ月に1回は外出や季節感が感じられるようにする。また職員だけではなく、御家族さんにも参加・協力して頂くことにも取り組む。	平成28年 10月迄
2	36	スタッフの認知症への理解に個人差があり、介護する側の視点や思いが強調され、その場面での対応やひとり一人の人格や思いを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言動や寄り添う等の意味、柔軟にそして臨機に個別対応等が出来ない事がある。また、言葉づかいが荒い時や声掛けが矢継ぎ早だったり、自分がされたらどうかという場面がある。	日々変化する認知症の原因疾患や特徴への更なる理解と各入居者のBPSDへの対応や生活環境及びその人の生活歴を把握し、現在の状態を踏まえ、寄り添い、傾聴しながらその人らしさを活かす。	職員研修でのグループワークを取り入れ、気づきや振り返りまた、個別指導及びケース会議等で認知症に対する理解や様々な情報や各技術の周知と実践を行い、自分に置きかえて認知症の理解と意識に取り組み全職員の情報共有や方向性を高める。また、外部研修にも積極的に参加させ、様々な視点を持たせる。	平成28年 10月迄
3	33	利用者さんの重度化など日々グループホームにおける状況が変化しており、対応できない事やとまどう場面が多くなっている	自分のケアに自信を持ち、様々な状況を受け入れて、一人対応や複数対応などの工夫をしながら、その時々で対応できるようする。人間力豊かなケアに務める。	今までの業務内容を見直し、夜勤時間の短縮や各業務への固定概念を見直し、重度化対策や業務軽減、柔軟な職員配置に取り組む。また、今後職員の異動も検討していく。	平成28年 10月迄
4	13	各職員の悩みやストレスを緩和するように日々取り組んでいるが、各職員個々のレベルや介護観も違うので、どうしても悩みやストレスを抱えやすい。また、それぞれの生活環境も考慮する必要がある。	職員が気軽に相談出来る環境作りと定期的な個人面接の実施を行い、傾聴とアドバイスを実施し改善に取り組む。又、外部研修等へ積極的に参加させ様々な場面で外部と接する機会を設け、心の病防止に努める。また、各職員の生活環境も把握する。	各職員の自己特徴・現状の思いや悩み、課題や改善等を各職員それぞれが自分と向き合いまた把握してみる。また「自分」を強調せず「お互いさま」などの意識変化や悩み解消へ繋げる。又、勤務日数など働き方にも柔軟に対応し、様々な環境整備に努めるとともに、内部、外部研修を通して、全職員の資質向上を行うとともに、業務内容の見直しや改善を行う。	平成28年 10月迄
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

ホームさくらい